



GLOBAL MAPPING NewsLETTER 72

地球規模の G 空間情報の舵取りと未来 ～論点と課題、そして国連の役割～

福島 芳和 ISCGM 事務局長



11 月 15 日地球地図国際運営委員会 (ISCGM) 委員長のポール・チュン教授が、東京で毎年実施されている G 空間 EXPO において、「地球規模の G 空間情報の舵取りと未来～論点と課題、そして国連の役割～」と題した講演を行いました。最初に国土地理院村上企画部長が、ポール・チュン教授が G 空間情報を担当する国連統計部の前部長であり、今年 7 月に ISCGM の委員長に就任したこと、そして、国連を中心に実施されている、未来の地理空間情報によるグローバルな課題に対する貢献を含む、最新の世界の地理空間情報の動向のレクチャーを受けるとこのセミナーの目的について説明しました。

チュン教授は、G 空間情報の最新技術と解像度 30m の土地被覆データ、シンガポールでの人口統計を用いた都市分析、東京での適用ができるロンドンオリンピックでの地理空間情報利用の事例、統計の地理空間情報の利用方法

と課題、住所及びジオコード、全球レベルの地理統計情報における大きな隔たり、加盟国間の諮問・政策を強化するメカニズムである国連地理空間情報専門家委員会の設置とその活動、多国籍企業主導ではなく各国政府当局が国家主権の問題として自国の地理空間情報に取り組むべきなど、世界の最新の取組状況について約 1 時間講演を行いました。また、地球地図プロジェクトの目指すべき姿について、これまでの体験等も含めてお話いただきました。

その後、つくば市において稲葉和雄国土地理院長と持続可能な開発のための地球地図作業部会 (GM4SD WG) を含む UN-GGIM の今後の活動について意見交換を行いました。また、ISCGM 事務局員を激励し、今後の早期に実現すべき ISCGM の詳細な活動項目についてディスカッションを行いました。



チュン教授（左）と稲葉国土地理院長（右）

災害対応能力強化のための作業部会設立が提言される ～国連地球規模地理空間情報管理に関する成都フォーラムの報告～

坂部 真一
国土地理院企画部国際課長

中国四川省成都市では 10 月 15 日から 17 日、国連 UN-GGIM 事務局（国連統計部内に設置）と中国国家測繪地理信息局が主催した国連地球規模地理空間情報管理（UN-GGIM）に関する成都フォーラムが開催されました。

「都市域におけるハザードマップの整備と利用」というテーマの下、約 40 カ国・地域の地理空間情報当局、学術機関、国際機関及び中国国内の関係機関から、約 180 名の専門家が参加しました。

・本会合の報告（10/15 ～ 17）

フォーラムでは、8 つのセッションが設けられ、都市災害への対応や減災の取り組みにおける地理空間情報の重要性が指摘され、地理空間情報当局が適切な役割を果たすことの重要性が認識されました。各国の地理空間情報当局の発表に加えて、その他の機関からも地域の先進的な取り組み事例が報告され、フォーラムの開催地となった四川省政府や、米国ニューヨーク市などからは、災害対応での GIS 活用事例などが発表されました。フィジーやカメルーンなどの途上国も取り組みを発表しました。また、災害リスクの解析などの分野の研究者等も多数参加し、モデルなどを用いた危険性評価についても紹介されました。

日本からは、国土地理院の東日本大震災への対応を紹介し、災害前、災害時には、各国においても地理空間情報当局が積極的に貢献する必要性を呼びかけ、災害時に地理空間情報を活用するためには、平時から地理空間情報を更新しておくことが重要であることを指摘しました。日本国の実際の災害対応の経験と教訓が共有されたとことは多くの参加者に歓迎されました。

フォーラムのとりまとめとしてパネルディスカッションが行われ、13 項からなるフォーラムの結論が取りまとめられました。地理空間情報分野の技術と専門性を

十分に活用し、各国の災害対応能力を強化することを目的とした作業部会の設立を検討するなど、前向きな提言が行われました。

・テクニカルツアー（10/17 ～ 18）

フォーラム終了後にはテクニカルツアーが実施され、四川省測繪局、四川大地震被災跡地などを訪問しました。

四川省測繪局では、本年 4 月 20 日に発生した四川地震への対応について紹介を受け、実際に災害対応で利用された低空無人航空機（UAV）や移動計測車両による測量システム（MMS）を見学しました。

また、10 月 18 日には 2008 年の四川大地震（汶川地震）の震源となった四川省汶川縣を視察し、地震により崩壊した建物が保存・展示されている状況等を見学しました。

・今後の予定

国連地球規模地理空間情報管理（UN-GGIM）に関する今後の予定は、来年 8 月に地球規模地理空間情報管理に関する国連専門家委員会（UNCE-GGIM）がニューヨークで開催されるとのことです。



国土地理院宇根応用地理部長の発表

第 26 回 ICC（国際地図学会議）参加報告

小荒井 衛

国土地理院地理地殻研究センター
地理情報解析研究室長

2013 年 8 月 26 日から 30 日まで、第 26 回国際地図学会議（International Cartographic Congress; ICC）がドイツ連邦共和国ドレスデンで開催され、地球地図プロジェクトに関する口頭発表と、東日本大震災の液状化被害のポスター発表を行いました。

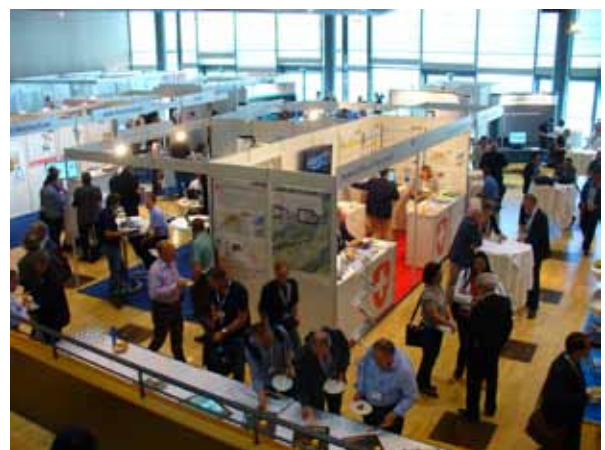
会議には、ヨーロッパからの参加者を中心に 81 か国から約 1500 人の参加がありました。日本人の参加は過去の大会に比べて少なく、大学の研究者を中心に 10 人程度の参加でした。

環境モニタリングのセッションで、「地球地図第 3 版作成に向けての取り組み」の口頭発表を行いました。国連の動きとの関連で大縮尺化や項目の見直しは無いのかとの質問がありました。また、国毎のデータの精度の不均一、商用利用の可能性等について議論がなされました。災害に関するセッションでは、水害やハリケーンの危機管理システムとその地図表現に関する発表が多く行われました。他には、地理空間情報の 3 次元化に関する研究、MMS 等による地上レーザ計測の研究に関する発表が多くありました。欧州では、ELF（European Location Framework）プロジェクトという各国が協力した WebGIS サービスのプロジェクトがスタートしており、国家地図作成機関セッションでは、そのプロジェクトの報告がありました。

ポスター発表では、「東北地方太平洋沖地震による液状化被害と時系列地理空間情報から検出した被害域の土地条件」と題して発表を行いました。地震前後の航空レーザ測量結果の差分から液状化による地盤沈下量が分かることに、興味を示した人が多数ありました。

この他に、各団体や企業によるエキジビション展示、コンペティションが行われた地図展、子供地図展などが開催されました。昼食やコーヒープレイクがエキジビション展示会場で行われていることもあり、全体を通して多くの人々で賑わっていました。地図展については、紙地図、アトラス、デジタル地図、教育地図、その他の 5 部門でコンペティションが行われました。日本の出展作品では、昭和新山のペーパークラフトの組み立て地図が、教育地図部門の第 3 位を受賞しました。全体を通しての最高位は、紙地図部門で英国が出展したグランドキャニオンの立体地図でした。

次回は、2015 年にブラジルリオデジャネイロ市で、次々回は 2017 年に米国ワシントン DC で開催予定です。

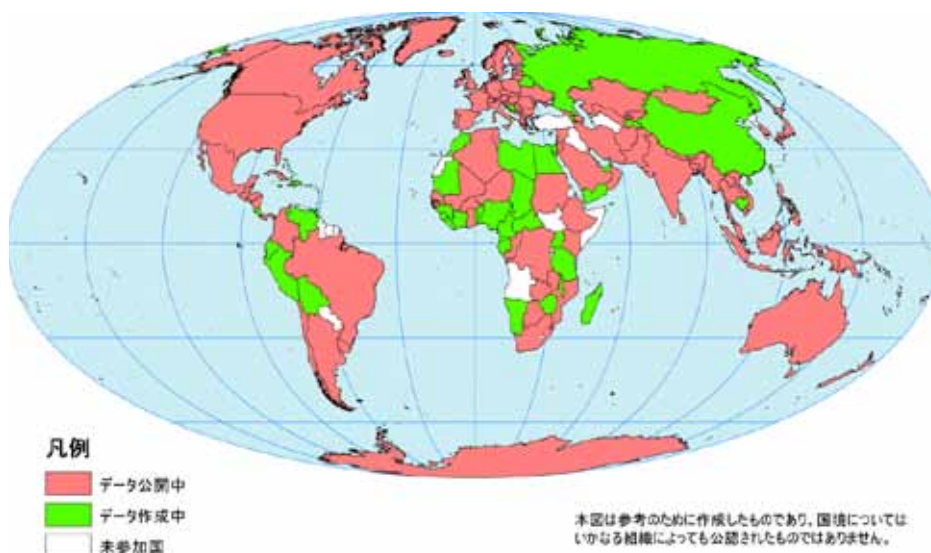


エキジビション展示の様子

事務局から

地球地図公開と地球地図プロジェクトへの参加

現在 166 カ国 / 16 地域が地球地図プロジェクトに参加し、110 カ国 / 8 地域（うち Ver.2 を公開しているのは 69 カ国 / 4 地域）の地球地図が公開されています。



メール配信のお知らせ

メール配信へ切りかえご希望の方は、氏名・住所・メールアドレスを sec@iscgm.org までお知らせください。

地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2014 年

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 1 月 13 日～ 17 日、ジュネーブ、スイス
第 10 回地球観測に関する政府間会合・
地球観測に関する政府間閣僚級会合・ 6 月 2 日～ 6 日、ベルリン、ドイツ
ISO/TC211 地理情報専門家委員会第 38 回総会・ 6 月 16 日～ 21 日、
クアラルンプール、マレーシア
XXV FIG International Congress | <ul style="list-style-type: none">・ 8 月、ニューヨーク、米国
第 21 回地球地図国際運営委員会 (ISCGM) 会合・ 8 月、ニューヨーク、米国
第 4 回地球規模の地理空間情報管理に関する
国連専門家委員会 (UNCE-GGIM)・ 11 月、バリ、インドネシア
第 3 回国連地球規模の地理空間情報管理に
関するアジア太平洋地域委員会総会
(UN-GGIM-AP) |
|---|---|



NEWSLETTER は地球地図情報誌として、世界中の地理空間情報当局や地球地図データ利用者など 1,200 名以上の多数の方々に配布されています。記事の投稿、配布の希望、関連する情報などお待ちしております。本誌の記事は、原文をそのまま掲載してあります。

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305 - 0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院内

Tel: 029 - 864 - 6910 Fax: 029 - 864 - 8087

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org